

*Creative Security Partner*

CSP 通信 volume 41

第52期のご報告

2023年3月1日 - 2024年2月29日

## 中期経営計画『Creative 2025』を 着実に実現して、人々と街の安心を創る

私たちCSPグループは、「創業の理念」を基盤として

培ってきたノウハウを基に

人と技術が最適に融合した警備とサービスを提供して

お客さまが不安を感じないように見守り

お客さまの危険や被害を予見し

いち早く正確に状況を把握して

社員が速やかにお客さまに寄り添い

Peace of Mind(安心してやすらげる社会)を実現します



代表取締役 執行役員社長 市川 東太郎

株主の皆さま、こんにちは！

2024年5月30日に代表取締役社長に就任しました市川東太郎です。日頃より皆さまには格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

私たちCSPグループでは、現場第一線の警備員が日々地道に自分の職責を果たして、お客さまの信頼を得てまいりました。近年では技術の発達により、実務の多くを機器やシステムに置き換えて、警備員はお客さまに寄り添うことに注力して、より早く、より強く、安心を感じていただけるよう取り組んでいます。

2025年に開業予定の高輪ゲートウェイシティでは、その象徴とも言える最先端システム「梯(かけはし)」を導入します。梯の活用により、各機器とシステムの連携で異常をいち早く把握して、近くにいる警備員が速やかにお客さまに寄り添い、安心していただける、そういった価値の高い街づくりに貢献してまいり

ます。

世の中の様々な業種でもシステム化や機械化により省人化が進んでいますが、無人化には至らない事柄も散見されます。そのような事柄については、私たちCSPグループにいる豊富な人財を活用して対応することで、事業者様のご負担を減らすことができ、お互いに持続的な事業運営に資するwin-winの良い形ができます。例えば鉄道事業者様においては、警備サービスに加えてお客さまのご案内、車いす対応、遺失物対応など、事業者様のお困りごとの解決に役立っています。

人々と街の安心とサービスを効果的に創り続けるために、CSPグループはもとより、CSLやその他の協力会社、お世話になっている皆さまとともに、自身の持てる力を他社のお困りごとの解決にも活用して、お互いに持続的な事業運営に資する姿を作ることも意識してまいりたいと考えています。

### Q 第52期を振り返っての考えをお聞かせください

第52期は、対前年・対計画とも増収増益でした。詳細は後述のとおりですが、特筆すべきトピックスは以下の事柄です。

#### 【労働者不足への対応】

高校卒や経験者の採用も積極的に行い、当社の仕事にふさわしい人財を獲得することに力を入れたほか、新入社員が安心して仕事ができるように先輩が相談相手になるブラザー・シスター制度を実施して定着率の向上に努めてきており、一定の成果が出てきています。

#### 【警備料金の値上げ】

給与水準向上の対応策の一つとして、最低賃金や物価の上昇によるコスト増をふまえて、お客さまに警備料金の値上げをお願いしたところ、多くのお客さまにご了解をいただきました。引き続き、世の中の賃金水準や物価の変化に合わせた値上げにご理解を賜れるよう警備品質の維持・向上に努めてまいります。

#### 【機器販売や工事への注力】

常駐警備や機械警備の拡販のほか、セキュリティ関連機器の販売や工事の受注に力を注いだ結果、大きな成果が出ました。これらは、将来の機器の定期的な取り替えという持続的な事業運営にも資するものであり、機械警備の受注にもつながる可能性を秘めたものです。

#### 【サミット警備への貢献】

広島サミットにおいては、危険物探知犬、対車両侵入防止柵、ドローン、新幹線警乗といったテロ対策を提供して、その成功に大いに貢献しました。これからも治安維持の一助として私たちのノウハウを提供してまいります。

#### 【M&Aによるエリアや業種の拡大】

昨年は栃木県を基盤とする東亜警備保障株式会社をグルー

プ会社化しましたが、全国ネットワークの維持向上、品質向上やコストダウンのために、これからも必要に応じてM&Aを活用していきます。

### Q Creative 2025の実現へ向けての考えをお聞かせください

Creative 2025は、コロナ禍の対応と品川やその他の大規模開発の開始を前提としたものであり、大規模開発のサービス開始直前である今年度は、その準備を着実に推進します。

また、4つの基本戦略「収益力の向上」「技術力の強化」「基盤の最適化」「グループ連携の強化」について、今までのセグメントや警備の枠組みを超えて、様々なサービスも組み合わせ、お客さまにとってより価値が高い安心を提供することを、一つでも多く、具体的に実現していきます。

これらを強く意識しながら仕事に取り組み、掲げた項目の一つひとつを実現して、目標数値を達成したいと考えています。

### Q 株主の皆さまへメッセージをお願いします

今年度は、コロナ禍の平常、各業種の2024年度問題の動向、AIをはじめ解析や予測技術の進展が見えてくる年であり、次の時代への対応を始める必要があります。

CSPは、今まで「警備内容で決められたことを確実に行う」ことでお客さまの信頼を得てきましたが、今後は「警備以外のサービスも加えてお客さまの安心レベルを向上させる」ことで、信頼に加えて、お客さまに大いに満足をしていただけるグループになっていきたいと考えています。

今年度は、新たな環境を踏まえて、CSPグループがどのように持続的発展をしていくのか、その姿を社員とともに創り上げていきます。

引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中期経営計画

# CSP Creative 2025

## 中期経営計画の進捗について

中期経営計画3年目の第52期（2024年2月期）は、前年比・計画比ともに“増収・増益”の業績でした

第52期は先進国首脳会議（G7広島サミット）に伴い臨時警備が増加したことや、画像関連サービスの販売が堅調に推移したことにより、“増収・増益”となりました。また、政策保有株式（りらいあコミュニケーションズ(株)）の売却により特別利益を計上し、今年度は過去最高の最終利益となりました。

CSPグループの目標



5年計画  
最終年度  
目標



第53期も増収・増益\*を目指す

	第52期 (2024年2月期) 業績予想	第52期 (2024年2月期) 実績	第53期 (2025年2月期) 業績予想
連結売上高	675億円	680億円	692億円
連結営業利益	42.0億円	43.1億円	43.5億円
連結営業利益率	6.2%	6.3%	6.3%

今年度の取り組みについて

今後、雇用・所得環境が改善し、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されます。一方で世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇や金融資本市場の変動等の影響など、現時点では先行きは不透明な状況が続くものと予想されます。

このようななか、少子高齢化に伴う労働力不足により、更なる業務の効率化・省人化が求められます。当社は右記①～②にあげた様々な取り組みを通じ、事業の持続的成長と更なる企業価値の向上に努めてまいります。

第53期の当社グループの見通しは、いまだに続く物価上昇への配慮や処遇改善などの取り組みに伴う人件費の増加により、厳しい業績が予想されますが、右記の様々な取り組みを推進することで、中期経営計画「Creative 2025」の最終年度における目標達成を目指してまいります。

### 今後の主な取り組み事項について

#### 1 画像関連サービスの拡販

- ▶VACSシステム  
カメラ映像から画像解析技術により自動検知した異常を、センター員が内容を確認して、適切に緊急連絡やパトロール員の駆けつけを実施
- ▶車両ナンバー認識システム  
通過する車両を撮影した映像からナンバープレートを抽出してデータ化し、セキュリティのほかマーケティング・車両管理・各種調査にも活用

#### 2 大型開発事業に向けた取り組み

- JR東日本様の品川開発（2025年から順次開業予定）等における警備を受注
- ▶セキュリティプラットフォーム様(かけはし)を活用し、引き続き、大型事業開発への総合提案や街全体のエリアマネジメントの提案を実施

#### 3 プラットフォーム・ビジネスの推進

- 警備会社や管理会社が、CSPの各種プラットフォームを活用することで、高額な設備投資を行わずに高度な警備・サービスの提供を実現
- ▶各種警備プラットフォーム  
・画像センターサービス ・ライフサポートメール  
・CSP Cloud Center (CCC) ・梯(かけはし)

#### 4 新事業分野への展開

- ▶ドローンを活用した事業展開  
【様々な事業展開】  
・設備点検事業の提供と更なる拡大  
・大規模イベントの開催に伴う関係官庁向けサービス  
・ドローンスクール事業



#### 5 生産性向上を図る取り組み

- ▶基幹システムの再構築による迅速かつ適切な事業戦略策定と事務処理の実現
- ▶自律走行型警備ロボットの開発、等

#### 6 グループ経営の強化とM&Aの推進

- ▶当社及び連結子会社13社、関連会社2社  
⇒グループ収益の最大化を目指す
- ・前年に実施した「りらいあの株式売却」によって得られた資金を活用することにより、従来よりターゲットとしていた、警備会社（同業）や周辺事業会社（ビルメンや電気通信系の工事会社）のM&Aを目指す。
- ・M&A（事業譲受）の実施により、当社とシナジーが望める「企業」または「事業」を今後もCSPグループに取り込む。

#### 7 サステナビリティ推進活動

社会 (Social)

CSPの社員が目指すべき人材像  
『チャレンジを続けて未来を創造する人』

中長期的な社内目標の見直し

	2021年	2025年 社内目標	2030年 社内目標	政府目標 (参考)
女性管理職比率	3.5%	6.0%	10.0%	30% (2030年)
女性係長級比率	10.0%	15.0%	20.0%	-
男性育休取得率	21.6%	50.0% 以上を維持	85.0%	85% (2030年)
有給休暇取得率	88.0%	80.0% 以上を維持	85.0%	70% (2030年)

# 更なる安全・安心の実現に向けた 次世代セキュリティサービス

東日本旅客鉄道株式会社が開発を進めている「TAKANAWA GATEWAY CITY」をはじめ、大規模開発向けに、2024年度末以降、次世代セキュリティサービス開始を予定しています。開発中のセキュリティプラットフォーム「梯(かけはし)」をはじめ、最新技術を集約させた、これまでにないセキュリティサービスとなります。

## 次世代セキュリティサービスの概要

開発中の梯を中心に警備ロボット、画像解析システムなどの最新技術を集約した次世代セキュリティサービスを構築します。梯が、様々なデバイスからセキュリティに関する情報を「統合・分析・解析」し、オペレーションの自動化とエリアマネジメントセキュリティ<sup>※1</sup>を実現可能にします。これにより街の人々が異常を感じたり発信したりする前にCSPが状況を把握して人々に寄り添い、いち早く安全と安心を提供するという価値の高い街づくりに挑戦していきます。

エリアマネジメントセキュリティ(イメージ)



※1 エリアマネジメントセキュリティは、隣接する複数の警備対象施設を統合。これまでの「各拠点(ビル)の警備」から「エリア(まち)の警備」を実現する新しい警備の考え方です。

TAKANAWA  
GATEWAY CITY

「高輪ゲートウェイ駅」周辺エリアに誕生する新たな街。「100年先の心豊かなくらしのための実験場」として新たなビジネス・文化が生まれ続ける街を目指しています。

<https://www.takanawagateway-city.com/>

## 梯×都市開発事業へ向けた取り組み

次世代セキュリティサービスのプラットフォーム「梯」は、街を見守り、街の安全・安心をいち早く提供するという価値の高いエリアマネジメントを実現可能とするものです。今後、大規模都市開発におけるセキュリティサービスの提供に関して、基本コンセプト策定から、設計・機器設置や人員配置・運用・メンテナンスに至るまで、梯を基盤に私たちのノウハウを用いて貢献していきます。

<https://www.we-are-csp.co.jp/corporate/securityplatform/index.php>



## 警備ロボット「C-SParX(シースパークス)」

ロボティクス・AI・画像解析・ネットワークなど、最新技術を搭載。マッピングされたルートを正確に自律走行し、カメラでとらえた映像をAIによる画像解析で異常を正確にすばやく検知。セキュリティスタッフ・監視センターへ映像とともに異常を知らせます。



警備ロボットの活用(イメージ)

## ウェアラブルカメラ

ウェアラブルカメラは遠隔地からも確認・通話ができるため、異常発生現場の状況をリアルタイムに共有でき、的確な指示や必要な支援を行えます。また、警備対応以外の様々なサービスにおいても、専門知識を持ったスタッフの指示・支援により、専門スタッフ同様のサービスが可能になるなど、セキュリティスタッフの多能化が実現できます。



ウェアラブルカメラの活用(イメージ)

## 画像解析システム

各エリアに設置されているカメラのリアルタイム映像から、指定した検知項目にもとづいて画像解析システムが高精度に検知。検知された映像は、即座に監視センターに伝送され、事案の発生を確認した場合は、セキュリティスタッフが現地へ駆けつけ、迅速かつ適切な対応で被害を最小限に抑えます。

## ICカード入退室管理システム「centrics(セントリックス)」

様々な場面で使用されている交通系ICカード。改札を通過し店舗で買い物をして、オフィスに入るまで一枚のカードでの対応が可能です。建物や店舗の規模、用途に合わせて様々なカスタマイズも可能です。



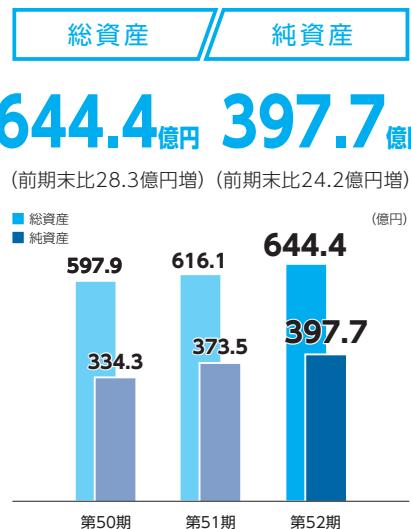
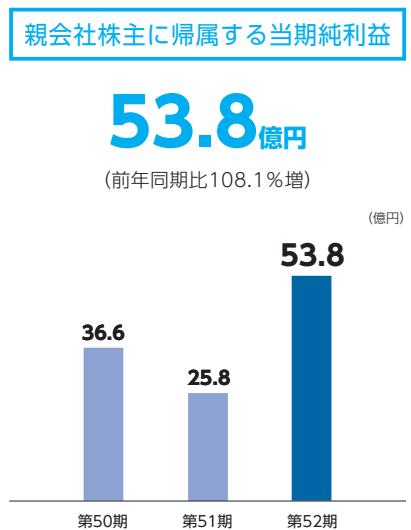
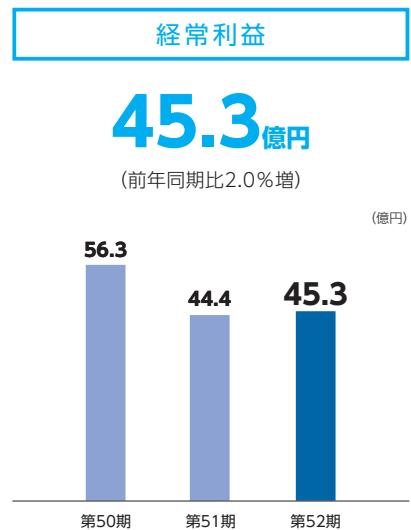
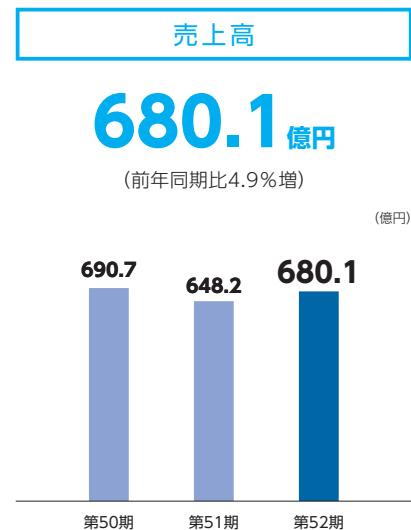
ICカード入退室管理システム(イメージ)

連結財務ハイライト

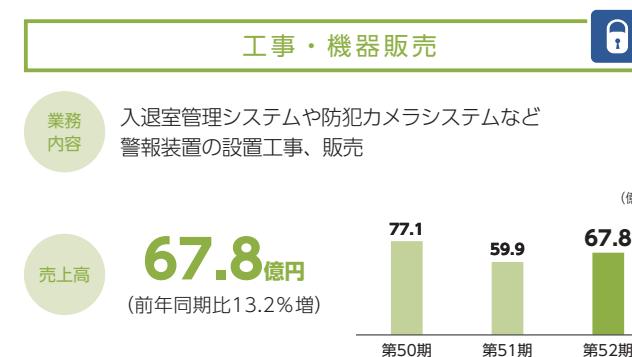
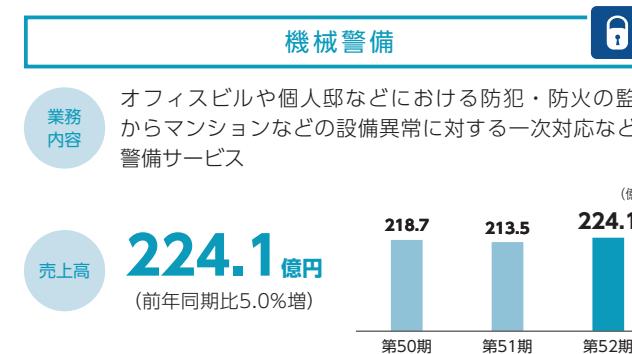
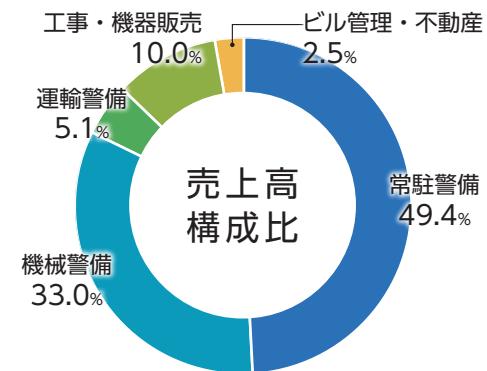
より詳細な情報は当社ホームページをご覧ください。  
<https://www.we-are-csp.co.jp/ir/index.php>

CSP IR情報

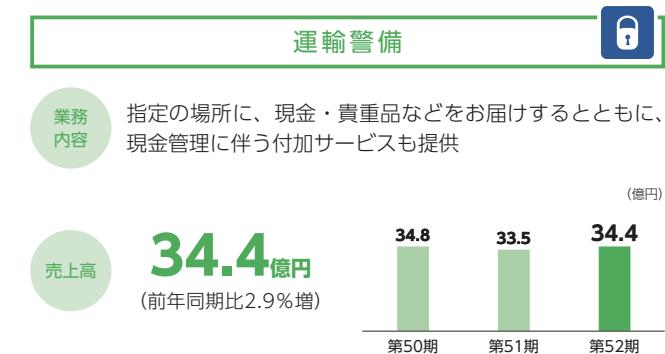
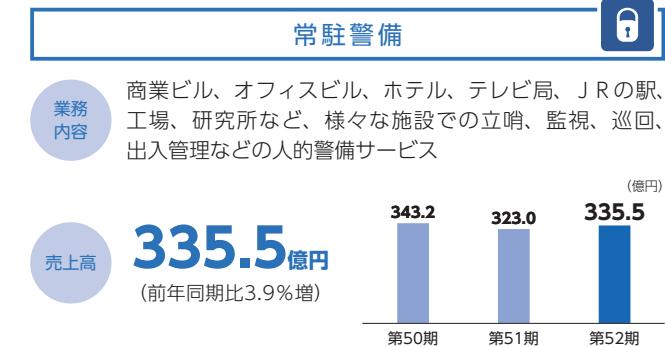
主要経営指標の推移



セグメント情報



セキュリティ事業



## 「CSPグループ人権方針」の策定 及びグローバル・コンパクトへの参加

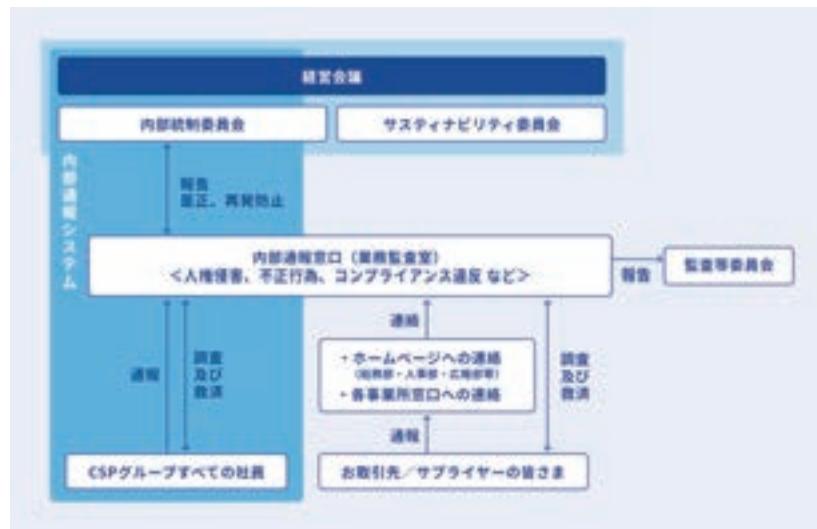
CSPの  
「人権への対応」  
ページはこちら▶



当社は、「CSPグループ企業倫理宣言」「パートナーシップ構築宣言」及び「CSP調達方針」に引き続き、人権尊重の考え方を具体的に示す「CSPグループ人権方針」を策定しました。本方針は、当社の事業活動の基盤となるもので、当社グループの役員及び全ての従業員に適用すると同時に、サプライヤーを含む全てのステークホルダーの皆さまにもご理解いただくよう努めてまいります。

### 人権推進体制

当社グループでは、事業に関わる全てのステークホルダーの皆さまの人権を尊重する取り組みとして、業務監査室を主管とし内部通報システムとそれに準ずる措置を通じて、通報から解決に至るまで速やかに対応できる体制を構築しています。



### 国連グローバル・コンパクトへの参加

当社は、2023年11月に「国連グローバル・コンパクト (以下UNGC)」に署名しました。

UNGCは、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための自発的な取り組みです。署名する企業・団体は、人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、腐敗の防止等に関わる10の原則を遵守し、その実現に向けて努力していくことが求められています。

#### 株式の状況

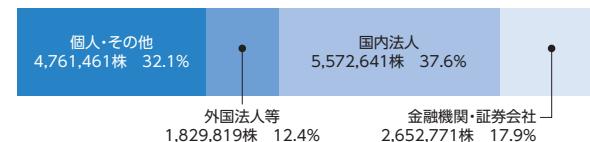
発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式の総数	14,816,692株
株主数	6,118名

#### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東日本旅客鉄道株式会社	3,704	25.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,373	9.39
セントラル警備保障社員持株会	541	3.70
光通信株式会社	519	3.55
セントラルセキュリティリーグ持株会	501	3.43
三井物産株式会社	445	3.05
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	361	2.47
BNP PARIBAS LUXEMBOURG/2S/JASDEC/ JANUS HENDERSON HORIZON FUND	361	2.47
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST・BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS-UNITED KINGDOM	251	1.72
HSBC BANK PLC A/C M AND G (ACS) VALUE PARTNERS CHINA EQUITY FUND	231	1.58

(注) 1.持株数は、千株未満を四捨五入して表示しております。  
2.持株比率は、自己株式(193,078株)を控除して計算しており、  
小数第2位以下を四捨五入して表示しております。

#### 所有者別株式分布状況



#### 株主メモ

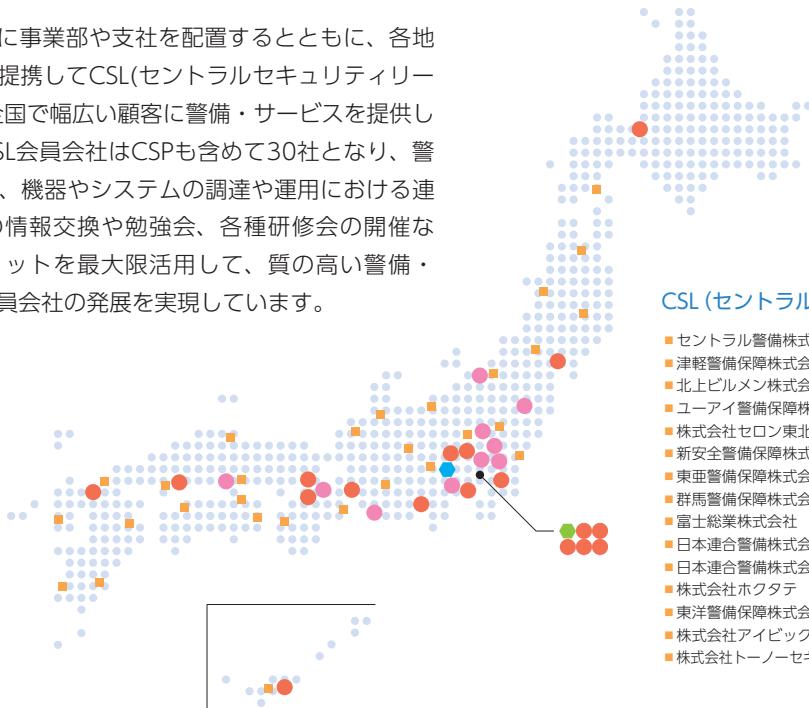
事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで	公告の方法	当社のホームページに掲載する。 https://www.we-are-csp.co.jp/	(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	毎年5月開催	株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	(電話照会先)	☎ 0120-782-031
基準日	期末配当金 毎年2月末日 中間配当金 毎年8月31日 そのほか必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日	株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	(インターネット ホームページURL)	https://www.smtb.jp/ personal/agency/

#### 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主さまには、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

# 日本全体に安心をお届けするCSL(セントラルセキュリティリーグ)のネットワーク

CSPは、主要都市に事業部や支社を配置するとともに、各地の優良警備会社と提携してCSL(セントラルセキュリティリーグ)を結成して、全国で幅広い顧客に警備・サービスを提供しています。現在CSL会員会社はCSPも含めて30社となり、警備実務の相互協力、機器やシステムの調達や運用における連携、営業や技術の情報交換や勉強会、各種研修会の開催など、スケールメリットを最大限活用して、質の高い警備・サービス提供と会員会社の発展を実現しています。



## CSL(セントラルセキュリティリーグ)会員会社

- セントラル警備株式会社
- 津軽警備保障株式会社
- 北上ビルメン株式会社
- ユーアイ警備保障株式会社
- 株式会社セロン東北
- 新安全警備保障株式会社
- 東亜警備保障株式会社
- 群馬警備保障株式会社
- 富士総業株式会社
- 日本連合警備株式会社 (山梨)
- 日本連合警備株式会社 (長野)
- 株式会社ホクタテ
- 東洋警備保障株式会社 (石川)
- 株式会社アイビックス
- 株式会社トーンセキュリティ
- イセット株式会社
- 和歌山警備保障株式会社
- 株式会社山陽セフティ
- 北陽警備保障株式会社
- 株式会社CGSコーポレーション
- 東洋警備保障株式会社 (徳島)
- 四国警備保障株式会社
- 株式会社セキュリティエヒメ
- 第一警備保障株式会社
- 株式会社ふよう長崎
- 日本連合警備株式会社 (大分)
- 企業警備保障株式会社
- 株式会社ゼンケイ
- 株式会社南日本警備保障

(2024年5月30日現在)

## 会社案内 (日本語版・英語版) を公開しました

<https://www.we-are-csp.co.jp/company/corporateprofile.php>



当社ホームページにて、会社案内資料(電子版)を公開しました。セントラル警備保障のあゆみや事業内容を詳しく案内しておりますので、ぜひご覧ください。PDFはダウンロード、印刷が可能です。

会社案内 (日本語版)



会社案内 (英語版)

